

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

今井 智子

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉知 雅子

佐藤 睦子

城間 将江

鈴木 恵子

関 啓子

玉井 ふみ

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

薫風の季節が過ぎ、梅雨の候が近づいてきましたが、6月は「日本言語聴覚学会」の季節です。今年の中野徹先生を会長として、6月22日・23日に北陸の富山市で開催されることになっており、言語聴覚障害に関連する研究の成果が多数発表されることと思います。

今号には、原著論文4編、症例報告2編、短報1編、調査報告1編、現場最前線1編が掲載されています。これらの論文の多くは昨年までに言語聴覚学会で演題発表された研究であり、学会発表にとどまらず、研究成果を広く共有し、それを臨床に還元するために論文発表に挑まれた著者に敬意を表します。掲載論文の研究領域は発声発語、嚥下、流暢性、失語症、発達、支援システムと多岐にわたり、いずれも社会的価値が高い貴重な知見を得ています。

本誌は2004年の発刊以来、14年間にわたり言語聴覚障害学分野の研究論文を掲載してきました。これらの論文は、今日の言語聴覚臨床の基盤となり、また新たな研究を触発してきたことと思います。IT技術の発展により、世界のグローバル化は様々な分野で進展していますが、言語聴覚障害学分野においても言語聴覚療法ガイドラインや Aphasia Bank のようなデータ・ベースの構築が各国の言語聴覚士が協力して世界規模で行われています。日本言語聴覚士協会は、わが国で唯一の言語聴覚士の職能団体であり、「日本言語聴覚学会」を主宰していますので、このような国際的活動に積極的にコミットし、また会員がこれらの活動に参加するうえでの組織的支援を行うことが望まれますが、このような活動を行うためのシステム作りは本分野の喫緊の課題と考えられます。その際に本誌に掲載された多数の論文は重要かつ有用な知見とデータを提供するものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第15巻 第2号) 2018年6月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2018, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院 (代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341 (FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (FAX 03-3817-8044)